

G-3 高等学校の家庭一般における被服工作の指導 内容について(第1報) —子供服工作指導の必要性—

一宮女短大 山本かなる

1. 中学校技術・家庭内容A, 被服1年活動的な日常着の製作計画, ブラウス, スカート, 2年休養着の製作, パジャマ, 3年日常の外出着の製作, ワンピースドレス, 高校家庭一般内容, 家族の被服製作計画, ブラウス, スカート, ベスト, 今回中高短大生が縫製した服種調査結果も, ブラウス, スカート, ワンピースドレスの順位で幼児服の作製は殆ど皆無, 0.3%内外であった。消費者生活において幼児の既製服利用傾向は著しい。改めて幼児服の根本を考えるに及び, 技術・家庭3年C保育, 幼児の衣生活指導, 高校家庭一般単元, 乳幼児の保育指導計画, 乳幼児の食物と被服(8時間)中高両単元を一本の柱に關聯を密に次の3点, 1) 幼児の身心発達と活動に適した服を家庭で作る, 2) 経済的な面(幼児服は成人服に比し高価, 成人服の厚生) 3) 母と子の心のふれあい(愛情)などの問題から幼児服をとりあげ, 地域職業別, 家庭状況, 幼児服作製傾向など調査追求してみた。

2. 1) 調査対象 名古屋市內, 市外 600 世帯

2) 調査期間 昭和44年6月~7月

3. 既製服を利用, 家庭で仕立てる, 特別仕立を利用, 既製服良否, 自家製の理由, 和服着用度と作製, 職業別家族構成, 収入, 幼児年代別など分析, 中・高・短大一貫幼児服指導の必要性について検討できたことを報告する。